

科目名	言語学特殊研究	担当者	オオカワ ヒデアキ 大川 英明	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ゲシュタルト的な知覚、視点の投影・移動、カテゴリー化などの人間が持つ一般的な認知能力の反映として言語を捉えることによって、文化を持つ人間と言語の本質を探究する認知言語学の考え方を理解し、同時にこの枠組みによる言語分析の方法を習得することを目的とする。また、日常言語の意味と概念体系は知覚、空間認知、運動感覚、体感、等の身体的な経験と心的イメージをはじめとする人間の想像力に根ざしているという言語観を背景とする認知意味論を枠組みとして、言葉の創造性に係わる意味の分析と記述について理解することと分析能力を養うことを目的とする。さらに、自ら興味のあるテーマを扱う論文を探し、理解し、批判する力を養成する。同時に、レポート作成を通して研究者としての倫理観を身につける。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、挑戦力、省察力を身に付けることを目指す。 【日本大学教育憲章ループリック：A-2:4, A-3:4, A-4:4, A-5:4, A-8:4】</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 認知言語学を理解し、言語における人間の認知の仕方に関する論文を読み、さらに認知言語学に関連する話題の分析能力を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容を理解し、認知言語学の中核的な概念である「カテゴリー化」「メタファー」「イメージスキーマ」等について説明できる。 ・認知言語学の中核的な概念を様々な言語現象に適用できる。 ・認知言語学に関連する論文を読むことにより、認知言語学による分析の仕方や論文の書き方が理解でき、論文を批判的に読む。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を受ける。 ・図書館やインターネット、等を利用し、研究論文を選び、自主研究に基づき、レポート作成をする。 <p>【学修方略（LS）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定教材を理解した上で、レポートを作成することにより、理解、分析し、論考を表現する。 ・指定教材を理解した上で、その知識を応用し、様々な言語現象について分析する。 ・関連する論文を読み、論文の書き方、分析の仕方を学び、さらに論文を批判的に分析する。 <p>【学習時間】</p> <p>レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の学修、論文選択、分析すべき外国語教材選択：20時間 ・レポート執筆：15時間 ・レポート推敲と最終稿の完成：10時間 		
スケジュール	<p><前期> レポート課題1 締切： 6月15日（初稿）・前期締切日（最終稿） レポート課題2 締切： 8月31日（初稿）・前期締切日（最終稿）</p> <p><後期> レポート課題1 締切： 10月31日（初稿）・後期締切日（最終稿） レポート課題2 締切： 12月20日（初稿）・後期締切日（最終稿）</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	90%	1) 教材・論文の理解度 2) 分析力 3) 論理的展開 4) 論文の書き方 前期レポート課題1, 2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。 後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。
	観察記録	10%	1) レポートの提出期限の厳守 2) レポート添削への対応
履修者への要望	<p>①博士前期課程において言語学の講座の履修経験があるか、または、前期のレポート課題1の提出時までにはそのレベルの知識を獲得していることを前提とする。</p> <p>②第1回目のレポートの準備を始める前に<u>担当教員にメールを送り、レポートの書式などの情報を得ること。</u> (ookawa.hideaki@nihon-u.ac.jp)</p> <p>③研究論文を選択する際に、選択が許容範囲かどうか確信がない場合には、教員に相談すること。</p> <p>④日常生活で接する様々な言語現象に注意を払い、言語分析をする態度を養うことを期待する。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 大堀 寿夫 教材名： 『認知言語学』（東京大学出版会，2002）ISBN： 978-4-13-082008-0 3,000 円+税
	本教材では，認知言語学の枠組み内で「カテゴリー化」「メタファー」「構文知識」といった認知言語学の主要な概念を体系的に説明し，さらにこの分野を文化人類学，発達心理学のような隣接領域との関わりからも展望することによりこころの働きを理解しようとしている。
参考図書	榎山洋介『日本語研究のための認知言語学』（研究社，2014）ISBN： 978-4327384685 2,000 円+税 辻幸夫『新編 認知言語学キーワード事典』（研究社，2013）ISBN： 978-4767434766 4,300 円+税
履修上のポイント	認知言語学の考え方，分析対象の範囲，分析方法を理解する。特に「カテゴリー化」「メタファー」「構造知識」「文法化」等についての理解を深める。
レポート課題 1	教材の第 1 章から第 6 章を理解したうえで，この範囲で扱われている内容に関連する研究論文を一つ選び，その主張の要点を紹介しつつ，批判や反論を提示し，さらに，改善案を説明しなさい。（3,000～4,000 字） 留意点 ：選択した論文が許容範囲かどうか分からない場合には，必ず事前に相談すること。扱う論文がインターネットで公開されていない場合には，PDF 化してレポートとともに提出すること。選択した論文の主張の要点は必ず自分の解釈，自分の言葉で紹介すること。
レポート課題 2	教材の第 7 章から第 12 章を理解したうえで，この範囲で扱われている内容に関連する研究論文を一つ選び，その主張の要点を紹介しつつ，自らの批判や反論を提示し，さらに改善案を説明しなさい。（3,000～4,000 字） 留意点 ：選択した論文が許容範囲かどうか分からない場合には，必ず事前に相談すること。扱う論文がインターネットで公開されていない場合には，PDF 化してレポートとともに提出すること。選択した論文の主張の要点は必ず自分の解釈，自分の言葉で紹介すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 山梨 正明 教材名： 『認知意味論研究』（研究社，2012）ISBN： 978-4-32-740162-7 2,800 円+税
	本教材は認知意味論の視点から日常言語の意味の世界の分析を試みている。特に，日常言語の意味発生のメカニズムと概念体系の諸相を，「イメージ形成」，「イメージ操作」，「メタファー写像」，「ゲシュタルト変換」，等の人間の創造的な認知能力との関連で考察している。
参考図書	『新編 認知言語学キーワード事典』（研究社，2013）ISBN： 978-4767434766 4,300 円+税
履修上のポイント	認知言語学の基本的な研究成果を理解したうえで，「イメージ能力と概念体系の創造性」「日常言語の意味の発現と概念体系」「身体的レトリックと言葉の創造性」「日常言語におけるレトリックの複合性」等を中心に認知意味論的アプローチの理解を深める。
レポート課題 1	教材の第 1 章から第 3 章を理解したうえで，この範囲で扱われている内容に関連する研究論文を一つ選び，その主張の要点を紹介しつつ，自らの批判や反論を提示し，さらに改善案を説明しなさい。（3,000～4,000 字） 留意点 ：選択した論文が許容範囲かどうか分からない場合には，必ず事前に相談すること。扱う論文がインターネットで公開されていない場合には，PDF 化してレポートとともに提出すること。選択した論文の主張の要点は必ず自分の解釈，自分の言葉で紹介すること。
レポート課題 2	教材の第 4 章から第 6 章を理解したうえで，この範囲で扱われている内容に関連する研究論文を一つ選び，その主張の要点を紹介しつつ，自らの批判や反論を提示し，さらに改善案を説明しなさい。（3,000～4,000 字） 留意点 ：選択した論文が許容範囲かどうか分からない場合には，必ず事前に相談すること。扱う論文がインターネットで公開されていない場合には，PDF 化してレポートとともに提出すること。選択した論文の主張の要点は必ず自分の解釈，自分の言葉で紹介すること。